

# 認証作業時間を33%削減 将来規格にも対応した「DTXシリーズ」

「より少ない時間で、より生産性が高く、より効率的に作業を進めたい」—— ネットワーク敷設業者のこうしたニーズに応えるべく、フルーク・ネットワークスが開発したのが「DTX ケーブルアナライザーシリーズ」だ。テストスピードの向上とトラブルシューティング作業の効率化で、認証作業のトータル時間を大幅に削減する。

フルーク・ネットワークスが新開発した「DTX ケーブルアナライザーシリーズ」の特徴は2点。テストスピードと、測定確度だ。

については、中位モデルの「DTX-1200」と上位モデルの「DTX-1800」は、カテゴリ6の認証試験をわずか12秒で実行できる。従来製品比3倍のテストスピードだ。

また、背面装着型のファイバーモジュールを使えば、光ファイバーケーブルの認証試験も実施できる。2波長における2本のファイバー長を測定し、その合否ステータスを識別するという標準認証試験すべてを12秒で完了。他社製品比5倍の速さを実現している。

の測定確度については、従来の「レベル」の10分の1以下の誤差しか

許されない「レベル」に対応。同社ネットワーク営業の相澤昭夫シニア・マネジャーは、「現在規格が定まっているのはカテゴリ6の測定に対応したレベルまでだが、将来の標準規格を見据えて、策定中のレベルにまで対応させた」と説明する。

将来規格への備えは、対応周波数にも表れている。最上位機種DTX-1800は、最高900MHzの試験を実施できる。この広帯域は、ISO Class F(カテゴリ7に相当)だけでなく、最近注目されている10Gビットイーサネットへの対応も可能とするものだ。

現場での使い勝手の向上を図った点もDTXシリーズの特徴だ。従来、複数の基板に分かれていたメインボードを1枚に集約するなどして、216×112×



株式会社フルーク  
ネットワークス営業  
シニア・マネジャー  
相澤昭夫氏

60mm、1.1kgという小型・軽量化を実現。バッテリーも従来のニッケル水素から、軽量かつ長寿命のリチウムイオンに換えて、12～14時間の作業時間を達成。バッテリー切れを気にすることなく、1日の作業を完遂できる。

さらに、トラブルシューティング機能の効率化も図っている。リンク障害の発生時には、原因を判りやすく表示して、障害位置と想定理由を通知する。

これらの機能と性能により、仮に1回の作業シフトで認証されたケーブルの2%程度がオートテストで不合格だったとしても、認証にかかる作業時間を1日あたり2時間削減できる。テスト時間の短縮化と併せて33%の作業時間短縮が実現できる(図)。

相澤マネジャーは、「価格や将来規格への対応はもちろん大切だが、最も重要なことは、いかにして現場の作業効率を高めるかだ。DTXシリーズはそれに十分応えられる製品であり、「時間節約こそ全て」をキーワードに拡販していきたい」と意欲を語っている。

お問い合わせ先

株式会社フルーク  
ネットワークス営業部

TEL 03-3434-0181

E-Mail info@fluke.com

URL <http://www.flukenetworks.com/jp/>

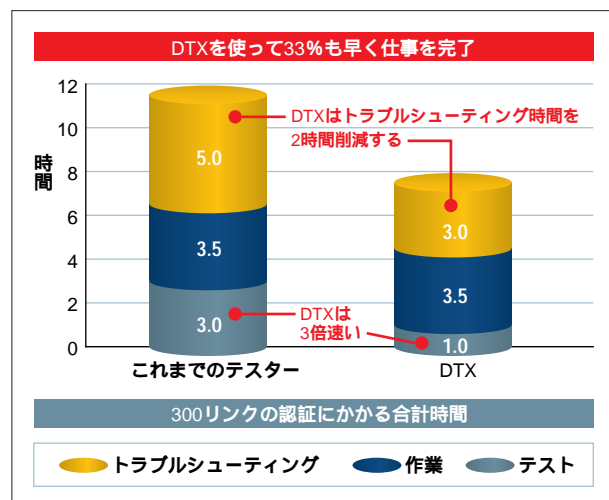


図 DTXによる認証作業時間の削減効果



DTXシリーズは日本語表示に対応している